



ながおか

瑞穂町立瑞穂第二小学校
学校だより 第2号
令和4年5月2日



大いなる未完成

校長 松山 大作

「大いなる未完成」という言葉があります。私が大切にしている言葉の一つです。

子供たちを教育する際に気を付けなければならないのは、早い段階から完成形を目指してしまうことだと思っています。急いで完成させようとするあまり、決まった型に無理にはめ込もうとしてしまつては、いつか思わぬ形で無理が生じてしまうかもしれません。むしろ、「大いなる未完成」として、子供たちの内なる可能性を信じ、大樹へと育つための「根」を張ることこそが、最も重要なことではないかと思うのです。

子供たちは本来、「伸びよう！」「成長しよう！」という生命の勢いをもっています。その姿は、まるで新緑の若葉がすくすくと成長していくようで、新しいエネルギーにあふれた姿は、とても眩しく感じます。ただ、成長していく速さは決して同じではありません。一人一人大きく異なります。すぐに伸びる子もいれば、じっくり、ゆっくりと伸びていく子もいます。それは、子供たちそれぞれに、その子だけの個性があるからです。その多様な個性を一つの型に入れてしまおうとすると、持ち味であるよさを壊してしまうのです。大切なことは、子供たちが自ら伸びようとする主体性を引き出し、それぞれがもつ個性と創造性を伸ばしていくことだと思っています。

子育てには、「こうしたらうまく育つ」という教科書はありません。学校でも、家庭でも、その子の性格や特徴をよく理解し、それに合わせて粘り強く接していくしかありません。育てるためには、子供を信じ、育ててくるのを待つ忍耐強さが必要です。仮に、今思うような成績がとれなくても、運動が上手にできなくても、周囲と比べてできないことがあっても、将来、どんな素晴らしい人材になるかは分かりません。したがって根本は、子供を心から信頼していくことであり、子供の未来を信じていくことだと思えます。その中でこそ、個性は開花していくと信じています。

新緑の若芽が伸び伸びと成長するためには、日光と水が必要です。それと同じように、伸び盛りの子供たちには、「励ましの言葉」と「信頼を寄せる声掛け」が必要です。子供たちの可能性を信じる愛情の深さの分だけ、若き大樹は伸び伸びと、たくましく「根」を張り広げていくに違いありません。小さい完成形に収めることなく、「大いなる未完成」として、温かく育てていきたいと思えます。



正門の桧葉（アスナロ）